

ただいま、月刊田中けんの感想文を匿名にてご紹介しています。紙面の都合上、編集後の掲載となり、原文と異なることもあります。

ご了承の上、e-mail・封書・ハガキによるご連絡をお待ちしています。

弁護士の無料法律相談を受付中
議員インターンシップを受付中

詳しくは、03-5662-7755までお電話を。

田中けんの活動

TV出演!! 在日外国人参政権を考える

11月4日(木)に友人の市議会議員から誘われて、テレビに出演しました。テレビといっても、チャンネル「桜」
<http://www.ch-sakura.jp/index.php>という衛星放送の番組です。地方議員が11名集まって討論しました。テーマは「在日外国人の参政権について」です。



後列左端が田中けん

国会議員でなく、なぜ地方議員に声がかかったのかですが、国政における参政権は難しいが、地方自治に関しては、在日外国人の参政権を認めても良いのではないかという風潮があるからだと思われます。

今でも地方議会には、在日外国人の参政権を認めて欲しいという陳情が提出されることがあります。韓国系の民団の方々からは、認めて欲しいという主張を聞きます。また北朝鮮系の朝鮮総連の方々からは、参政権は民族分断に利用されるから認めないで欲しいという主張を聞きます。当事者であっても、賛成反対が別れる問題ではあります。

当日集まった11名の地方議員の立場は、賛成派(条件付きや消極的も含め)は4名。反対派は6名。保留が1名という内訳です。私は保留という立場を選択しました。

以下、討論を通じて私が発言したこと、または討論後に考えたことを列挙します。

まず在日外国人の参政権に対して、直接的に答えませんでした。なぜならば、それに関連する周辺部分の問題にこそ、私の興味関心があったからです。

今回の討論会では、賛成、反対のそれぞれの主張に耳を傾けたいとの思いから、立場性に囚われない態度保留という位置から発言を心がけました。

参考資料

「在日コリアンの政治参加」

在日社会では、…(中略)…日本の政治に参加することは前提とされ、その上で、その権利をどこまで、どうやって獲得するかの議論が主流となっていた。

「韓国籍で地方参政権の取得を」「日本国籍取得による政治参加が現実的。そのためには、帰化でなく届け出による国籍取得への法改正が必要だ」「日本の国籍法を二重国籍容認や生地主義に変える方法はないのか」等々、在日の政治参加について、様々な意見が表明された。

(中略)

「国会議員や、市長、大臣にもなってみよう」との20代の青年の声も聞かれたが、時代の変化を感じさせるものだ。

2004年11月26日(金)
東洋経済日報「鳳仙花」より抜粋

田中けんの具体的な考察は2ページで!! →



テレビ出演では、こんなことをしゃべりました

日本人の参政権について

日本人であっても、参政権を行使できない人たちがいます。私の問題意識としては、まずそちらにこそ優先順位があります。具体的には、以下のような例を挙げてみました。

外国で生活している人。遠洋漁業などに携わっている人。住所不定の人。頻繁に引越をすることで、住民票登録の期間が短い人。

ただし、ここは在日外国人の参政権について議論する場なので、簡単にこのような問題があるということだけ触れて、発言を止めました。

日本人の少子化について

日本人の人口は、このままで行けば、2100年には多くて6,000万人、少なくても4,000万人ほどと言われています。私自身は、このように日本人がいま現在から見ると急激に減る現象を単に「悪いこと」とは思っていません。なぜならば、明治以降の日本人の人口は、人口バブルと言える状況で増え続けてきたのであり、江戸時代の日本人は3,000万人しかいなかったことを考えれば、これからの人口減とは「正常値」にもどるだけとの感覚だからです。

しかし、多くの日本人は、この傾向を多分「悪いこと」と考え、何とかしなければならぬと考えるでしょう。

この場合、「産めよ殖やせよ」という対応には限界があります。では、どうしたら日本人が増えるのでしょうか。解決策の一つとしては、多くの外国人の移住を認めるという選択肢も考えられます(私自身は、少子化が問題だとの立場ではありませんから、外国人の移住を積極的に認めるべきという立場でもありません)。

この移住政策は、日本に來たいという外国人からの要求だけでなく、日本の産業界からも強く要望されることでしょう。もし、そのような形で、何百万人、何千万人単位で、人手不足が深刻化する??で、外国人が日本に移住してきたら、そのときでも外国人の参政権を認めないと言い切れるのかどうかという問題意識です。

また、そのような多民族国家日本が出来上がったときに、日本の文化や治安などはどうなってしまうのだろうかという不安にどう答えられるのかという問題も新たに発生するでしょう。

ですから、そのようになった場合、私は「(血統的)日本民族は減るが、日本人(全体)は減らない」との一言で、将来の日本を予想してみました。

外国人の受け入れに対して

決して私は、外国人受け入れに積極的な立場ではありませんが、どうしても受け入れをせざるを得ないとなれば、それは慎重に行わなければならないと思います。外国人の受け入れというとバブル経済時における単純労働者をイメージするかもしれませんが、私が望む外国人像は全く逆です。日本の国益に大きく貢献できる人にこそ、来て欲しいのです。具体的には、文化・芸術・科学・スポーツなどで優れた才能を持っている人。お金をたくさん持っている人。日本国内でたくさんの雇用を生み出すことができる人たちなどです。イメージとしては大相撲の朝青龍であったり、Jリーグのサントスであったり、日産のゴーンであったりします。

帰化する、しないは別にしても、そのように優秀な外国人こそ、日本は受け入れるべきでしょう。

ですから、外国人の移住を認めると決断した場合は、どのような基準で受け入れを認めるのか、議論すべきです。いま現在ののように、原則認めない方向でありながら、不法滞在者が後を絶たないような実態にするのではなく、受け入れるべき部分は受け入れ、不法者に対しては、厳格に対応すれば良いでしょう。

私は優秀な外国人こそ、受け入れるべきだとの立場から、私案として以下のようなハードルを考えてみました。条件は6つあります。日本語を読み、書き、話せること。見せ金ではないまとまった現金を長期間にわたって日本の銀行口座に担保として貯金できる人。住む場所が決まっていること。職業が決まっていること。母国において犯罪歴がないこと。一定期間中、もしも犯罪を犯すことがあったら直ちに滞在を中止して、母国に戻されることに異存がないことなどです。

日本人の定義について

日本人とは、日本国籍を持っている人のことを言います。今までのような血統主義的発想(父親か母親のどちらかが日本人ならば、産まれてきた子どもは日本人という考え方)だけでなく、合法的に長期滞在している在日外国人から産まれてきた子どもは日本人という出生地主義的発想をすれば、良いでしょう。そうすれば、在日韓国人、朝鮮人の方々も一世はともかく、二世、三世に関しては、何ら問題なく日本人になることができます。

在日外国人の参政権に対して、強固に反対している議員に話を聞いても、帰化さえすれば何ら問題ない。つまり日本人になってしまえば問題ないという意見なのです。ですから、国籍取得に関して、血統主義的条件だけでなく、出生地主義的条件も取り入れて、産まれたときから日本人として認めてしまえば、問題が少なくなるはずですよ。

在日韓国人・在日朝鮮人について

在日外国人の参政権についてと言った場合、アメリカやヨーロッパのような一般的に言う外国人ではなく、歴史的背景を背負った在日韓国人と在日朝鮮人の方々に対する対応については別途考えた方がよいとの意見がありました。私の発言の中でも、自分はわかったつもりでも、時には別々に、時には一緒に考えて発言していたこともあって、まとまりが無かったと思います。

彼らについては、それぞれの民族の誇りを大切にしてもらいつつも、なるべく早めに帰化して日本人になっていただくことが良いのではないかと思います。帰化せず、それでも、参政権を与えよという主張では、とても反対派の方々の理解は得られないと思われます。

保留の立場にあった私ですが、討論を通じて思ったことは、在日外国人の参政権については、国政であれ、地方自治であれ、このまま認めるには問題が多いということです。

今回の議論で一番問題となった、在日韓国人のことについても、韓国では在日外国人の参政権を否定していますから、仮に日本が在日韓国人の参政権を認めたとしても、在韓日本人の参政権が認められないのは不平等な扱いだと言えます。

お互いの国が平等な対応ならば、在日外国人に対して、参政権を認めても良いとする相互主義を条件とした賛成派も、この事実を前にすれば、反対派にならざるを得ません。

ただし、私の場合は「日本人の定義」にて述べましたとおり、日本で生まれ育ち、これからもずっと日本でその生活の多くを過ごす合法的在日外国人に関しては、日本国籍取得条件を緩和することで、「外国人だった」人たちに参政権を与えられる社会が良いのだろうとの意見に至りました。

都市人口を増やしてはいけない

人口問題をテーマにすると、それは決まって少子化と同義になることがある。

しかし、私にとっての人口問題とは少子化ではない。むしろ、人口が少なくなることが問題なのではなく、都市の人口が多すぎていることが問題であるという認識だ。

地方政界に入って常に感じるのだが、行政も議会も、なぜか「過密」と正面から向かい合おうとしない。

具体的な例を挙げて検証してみよう。

駅前の駐輪が多すぎて問題になっている。それに対して、違法駐輪を徹底して取り締まるべきという厳罰主義を唱える意見があれば、もっと駐輪場を増やして対応すべきという主張もある。バスのように安価な公共交通を充実すべきとの指摘もあり、他にも様々な解決方法を模索する意見はある。しかし、それらの意見の中には、そもそも自転車に乗っている人間自体が多すぎるという視点はない。

江戸川区は平均年齢が若い区だという。子どもが多い区だと言う。それは無条件に良いことのように語られるが、そんなことはない。子どもが多いから、子どもを受け入れる保育施設が足りない。解決策としては、本来、子どもは家庭で見るといい意見がある。もっと保育施設を充実した方がいいという意見もある(過密すぎて、保育施設を建てる土地もない)。しかし、それらの意見の中には、そもそも子どもが増えすぎている(少なくとも江戸川区ではそうだ。子どもが増えているので、施設の建設が追いつかない。待機児童も増える。その結果、待機児童を抱える家庭は不幸になるという現象を招いている)ことが問題だという視点はない。

通勤電車が満員だ。これを解決しようと時差出勤を奨励する試みがある。もっと電車を増やせという声もある。でも、通勤している人間自体が多すぎるという意識はない。

道路は車でいつも渋滞している。車を減らそうという意見は聞くが、車を運転する人間を減らそうという意見は聞いたことがない。

この日本は食糧自給率が低いという。食糧自給率を高めなければならないと言う。そのためにも、農業は重要であり、日本の農業を守らなければならないと言う。また近隣諸外国から安定して食料を供給してもらうための安全保障上の担保をしっかりとっておかななければならないという。しかし、食糧自給率が問題だとする視点の中には、そもそも日本人が多すぎるという視点はない。多すぎるからこそ、食糧自給率が下がるのだという視点がない。

私が議員になったとき、江戸川区は59万人だった。それが今65万人だという。10年で6万人増えたのだから、年平均6千人ずつ、この江戸川区は過密が増している。人口が増えることを区長は無邪気に誇らしげに語る。これで良いのか。本当に人口が増えることは、良いことなのだろうか。私たちの生活は、人が増えることで、逆に苦しくなったのではないだろうか。

もし本当に人口が増えることが良いことならば、江戸川区の面積は49km²で変わらないのだから、65万人などと言わず、このまま100万人自治体に突き進めばよい。ドンドン高いマンションでも建てて、過密に過密を重ねれば良い。でも、その時の江戸川区民、一人一人の生活はどうなっているだろうか。区民一人一人の生活は豊かになっているのだろうか。そもそも住民は本当に人口が増えることを喜んでいるのだろうか。

私は議会の中で、誰よりも先に「適正人口」という考え方を主張してきた。

人が生活するためには、一定の土地に一定の人口までが良いのであって、それ以上の人口が増えた場合は、逆に一人一人の生活の質が落ちてしまう。だから、一定の面積に何人の人口が「適正」なのか、それを探そうとする考え方であり、単純に人口が増えることが良いことだという立場には立たない考え方だ。

このような主張を、この江戸川区では、私以外の誰もまだ主張していない。そもそも人口が増えることは良いことであり、人口が減ることは悪いことだという固定観念から、脱却している人が、この江戸川区にはいない。

もし、いるというならば、是非お会いして、お話しをしてみたいものである。私と同様にこの江戸川区を更に住み良い自治体にするためには、もっと人口を減らすべきだという意見に共鳴してくれる人が本当にいるならば。

過密という、これほどの大問題が、まだ問題として意識されていないのが江戸川区の現状である。多分、これはそのまま東京都の意識でもあるのだろう。

冒頭に少子化について触れたが、私はこのように都市人口を減らした方がいいという立場に立つため、少子化については、比較的寛容であり、むしろ承認しているような部分もなる。もちろん全面肯定ではない。ただ、この少子化が都市の過密化を少しでも緩和してくれる一助になるのではないだろうかという微かな期待が私にはある。

でも実際は、地方がより一層過疎化して、都市はより一層過密化して、全体では日本人が減っていくという最悪のシナリオ通りになるのではないかと危惧している。

石原都知事は、当選直後、首都移転反対の大々的なキャンペーンを行った。首都移転反対も結構だが、首都移転反対の根拠となっている「過密」をいかに防止し、緩和していくかという命題には答えていない。

私はこの江戸川区において、「都市人口が増えることは良くないことだ」という新しい価値観をどこの自治体よりも早くうち立て、実際に住んでいる区民一人一人がより生活空間にゆとりを持てるような区政運営ができるようにしていきたいと思っている。より多くの区民が、私と同じこの価値観を共有してくれるためにも、私はこのようにして、同じことを何度も何度も繰り返して言い続けていく。

対話集会

12/19(日) 午後5時～午後7時

■日時

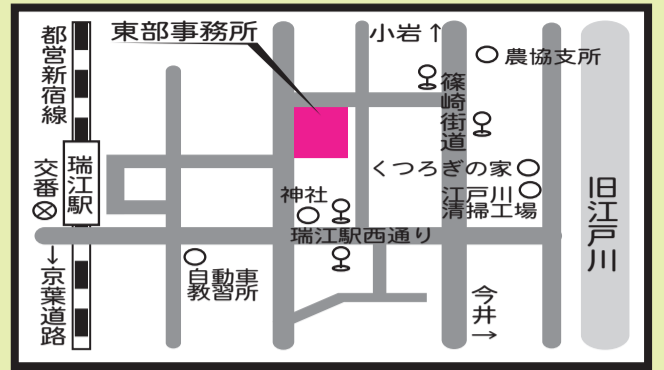
■場所

東部区民館 集会室 さくら

■参加費

無料

江戸川区東瑞江1-17-1 電話 03-3679-1123



上記イベントへのご参加・お問い合わせは 江戸川倶楽部 ☎ 03-5662-7755 または E-mail: club@t-ken.jp まで
 ※参加希望の方は、事前のご連絡をよろしくお願い致します。

イベント報告

◆10/30(土)

コミュニティープラザ之江
参加者:2名

◆10/31(日)

新田コミュニティー会館
参加者:0名

◆11/6(土)

カラオケ大会
参加者:3名

今後の予定

対話集会

2005年

参加費 無料

◆2月5日(土) 14:00～16:00

小松川さくらホール 第3集会室
江戸川区小松川3-6-3 ☎03-3683-7761

◆2月27日(日) 14:00～16:00

篠崎コミュニティーホール 第3集会室
江戸川区篠崎町7-27-1 交通会館篠崎ビル5階
(都営新宿線篠崎駅直上) ☎03-3698-8861

田中けんの写真日記 11月19日(金)

10月23日(土)に新潟県中越大地震が発生しました。震度7という阪神淡路大震災以来の地震です。幼い子どもたちが生き埋めにされ、母、姉が亡くなる中、弟のみが奇跡的に生還したというニュースが日本中を駆け巡りました。

このように国民的関心が高い中、いつどこで起こるか分からない地震に対する見識を深めるため、11月19日(金)に神戸市の「人と防災未来センター」を視察してきました。

【詳しくは、<http://www.dri.ne.jp/> をご覧ください。】

阪神・淡路大震災を記念して創設された複合施設で、館内は、防災未来館とひと未来館の二つのゾーンに分かれています。

このセンターのテーマである「言葉だけでは伝えきれない」という言葉通り、防災未来館では、阪神・淡路大震災の擬似体験ができました。1995年1月17日(火)の地震発生により崩壊していくビルや高速道路などの様子を迫力あるコンピューターグラフィックの映像を見ながらの体験でした。また実際に当時の様子を模型で再現して、通路の両脇に展示する手法も取られていました。ひと未来館では、癒しの空間でいのちの尊さと共に生きることの素晴らしさを体感しました。阪神・淡路大

震災の経験と教訓は、我が江戸川区でも充分いかせるはずで

現在、新潟中越地方にて震災の被害を受けた方々は、苦しい非難生活を

強いられています。私はまだ新潟へは行けませんが、神戸にて、そのような方々のご苦勞を知ることができました。自然災害の地震に対しては、全てが行政まかせでなく、個人でもできることはあります。自分の身は自分で守り、隣近所が助け合って地域の協力体制の輪ができることも大切だと痛感しました。読者の皆様方も、神戸へ行かれた際は、この「人と防災未来センター」へお立ち寄りいただくことをおすすめします。



読者からの便り

- ◆今朝、船堀駅で月間チラシ(N O14)を頂き拝見させて頂きました。電車の中で、さっと目を通しました。正直申しまして、内容にっかりです。単なる貴殿の日記にすぎないからです。記載されている視察の目的は？。生活振興環境委員会とは何？。各視察地を選択した理由は？。これらをどう江戸川区へ役立てるか？。
- ◆それぞれの視察に対し、貴殿の考え(議会でどう取り上げるか)は何か？。
- ◆我々区民に対し、何をやってくださるのか？。
- ◆それらが全く記載されてません。(唯一24時間電子申請の実現)今一度、我々区民の立場になって見てください。我々が政治家の方たちに求めているのは何かを。
- ◆生意気な事を書き連ねてゴメンナサイ。今後の貴殿の活躍を期待します。
- ◆9月号(古い)が中央区ではハッピー買い物券というのがあります。それも長寿用？区内商品券なら、その売上の地方税など区には、還元されないの？
- ◆お金であげても使われないで溜め込まれたら、意味がないのですか？
- ◆先日、VOL15を見ました。法律相談の件、大変良いご意見だと思います。我が家でも昨年相続問題で利用しましたが、事前にインターネットで調べておいたのが朝早く行きました。
- ◆区報だけ見たのでは、あんなに予約が大変とは思いませんでした。
- ◆それに時間も少なく、せかせかと一方的に話されて終わりました。しっかりと相談した気がしませんでした。
- ◆是非、利用しやすいようになつて欲しいものです。

高速道路を無料にしよう！ 禁煙を徹底しよう！ 都市人口を減らそう！



江戸川区
区議会議員

田中けん

自宅事務所

〒132-0021 江戸川区中央4-25-14

電話 03-5662-7755

E-mail info@t-ken.jp

プロフィール

- 1966年 江戸川生まれ/松江三中卒 墨田川高校卒 千葉大教育学部卒
- 1995年4月 江戸川区議会議員選挙当選 (2,789票・41位)
- 1999年4月 江戸川区議会議員選挙当選 (4,282票・16位)
- 2001年6月 東京都議会議員選挙落選 (12,394票・8位)
- 2003年4月 江戸川区議会議員選挙当選 (4,103票・15位)
- ホームヘルパー、タイ式マッサージ上級課程修了、江戸川トライアスロン連合会長

「月刊田中けん」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードしてご覧いただけます。 www.t-ken.jp